

ウトナイ湖通信



No.247

2024年12月号

ウトナイ湖の結氷が始まる12月。昨年は全面結氷しました。氷の上ではオオワシやオジロワシを、水面が出ている部分ではウトナイ湖周辺で越冬している一部のオオハクチョウやカモの仲間などが観察できます。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

12月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

12月8日(日)10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

●定員:10名程度

●申込:不要。直接当センターへ。

●対象:どなたでも

(小学生以下保護者同伴)



アイロンビーズで野鳥を作ろう ～シマエナガ編～

12月21日(土)11:00~、14:00~

●定員:事前申込先着4組(1組2作品まで)

●申込:12/1(日)~12/20(金)まで電話で当センターへ

●対象:どなたでも

(小学生以下保護者同伴)



年末年始の 休館のお知らせ

2024年
12月29日
日曜日

~

2025年
1月3日
金曜日

市民ギャラリー



傷病鳥獣救護展

会期:11月26日(火)~

内容:今年1年間で保護された傷病鳥の一部をパネルで紹介いたします。
またこれに合わせて、クイズラリーも開催いたします。参加していただいた方には参加賞もあるのでぜひご参加ください。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



~ ウトナイ湖 ~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライング・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



ハヤブサ

保護から1週間ほど、起立困難な状態が続いた



保護から3週間頃の様子。リハビリは順調で、飛翔力もかなり回復してきた

原因：衝突事故疑い

4月10日



4月26日



5月15日

リリース

道内のある地域で、建物の近くで動けずにいたところを発見され、同日中に保護センターへ搬入される。明らかな外傷は認められなかったが、起立困難。食欲はあるものの、足の握力は弱く、おそらく衝突により、脊椎を痛めたものと思われた。レントゲン検査では、骨折や脱臼は認められず、保護から約2週間後、リハビリを開始。最初は低空の飛行しかできなかったが、次第に飛翔力を戻し、保護から一か月余り、リリースとなる。

ハヤブサ (ハヤブサ目 ハヤブサ科)

全長はオス42cm、メス49cmで、メスの方がオスよりも体が大きい種です。一年を通じ北海道で生息しています。主に小～中型の鳥類を捕食し、狩りは空中で行い、獲物をつかみとったり、蹴り落とすなどのハンティング方法をとります。

トピックス



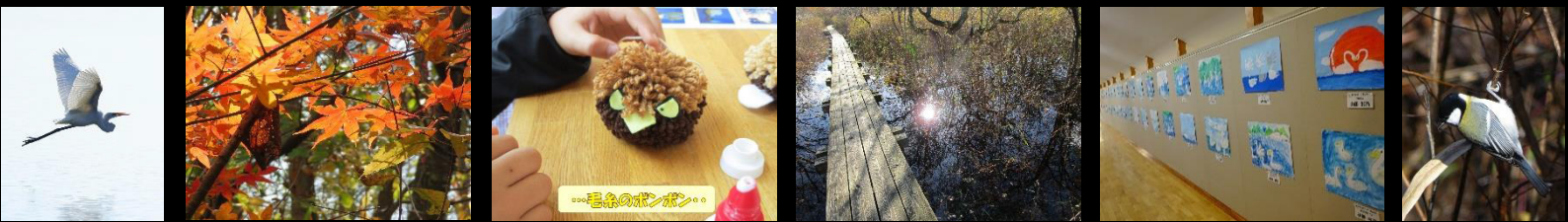
ボランティアフォローアップ研修 水鳥のカウントと識別に挑戦

ボランティア向けの研修を行ないました。今回は水鳥カウント調査について方法や水鳥の識別についてクイズを交えながら学び、実際に野外でカウントをしました。研修を終えて、複数地点でカウントが重複しないよう情報をやり取りする大切さを感じたという声が聞かれました。



親子で楽しむ ものづくりの秋

11月2日に、「大人も子供も楽しめる森のコロナポックル工作 DAY」を開催しました。シカの角を利用したアクセサリーや枝と木の実を利用した工作、アイロンビーズ、毛糸でシカやオジロワシなど作りしました。準備した数量を超えた参加となり、多くの方に楽しんでいただきました。



ボランティアコーナー

10/20 に開催した秋の渡り鳥 DAY にスタッフとして参加されたボランティアの山下雅永さんにインタビューしました。

秋の渡り鳥 DAY のサポート活動に参加しようと思った理由はなんですか

山下 雅永さん

ウトナイ湖のボランティアに登録しているため。また、渡り鳥に興味があったので参加しました。

参加してみた感想を教えてください

午後の観察会に参加した方たちがとても積極的に観察し、またたくさん質問されていたのが印象的でした。

印象に残った自然情報などがあれば教えてください

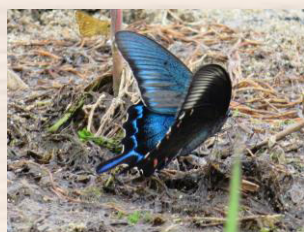
ガンやカモなど多数観察でき、オジロワシやたいへん珍しいチュウビなども見ることができました。改めてウトナイ湖が野鳥の楽園であることを感じることができました。



講演会の受付で参加者に資料を配る山下さん

ウトナイ湖 お楽しみコーナー [ウトナイ湖・クイズ]

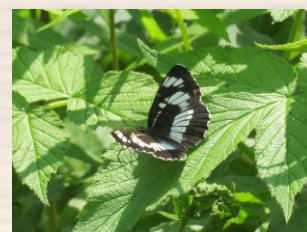
チョウ・ガの仲間には、秋に成虫になってそのまま冬を越す種類があります。さて次の 3 つの種類のうち、成虫で冬を越すチョウの仲間はどれでしょう？ ※答えは最後のページにあります。



① カラスアゲハ



② クジャクチョウ



③ フタスジチョウ

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



facebook



X(旧 Twitter)



レンジャーのおすすめ自然情報



【マヒワ】

全長約 12cm。冬鳥として渡来する。「チュイーン」と鳴きながら、餌を求めて群れで移動し、ハンノキの種子などを食べる。



【ベニヒワ】

全長約 13cm。冬鳥として渡来する。マヒワの群れに数羽混じっていることがある。年により飛来数の変動が大きい。



【ハシブトガラ】

全長約 13cm。一年中見られる留鳥で、日本には北海道にのみ生息する。冬は複数の種が集まる「混群」で行動する。



【ウソ】

全長約 16cm。ウトナイ湖では冬に見られる。「フィー」と鳴き、カラコギカエデの種子を食べに来ることがある。

木々の葉が落ち、小鳥の姿を観察しやすい時期になりました。ハンノキやカラコギカエデなどには、その種子を食べるためにマヒワやベニヒワ、ハシブトガラ、ウソなどの小鳥がやってきます。食事中は食べ物に夢中なので観察しやすいですが、長時間同じ場所に留まることは、野鳥へストレスを与えてしまう可能性があるため、注意して観察を楽しみましょう。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



facebook



X (旧 Twitter)

自然観察路ガイドマップ【冬】

